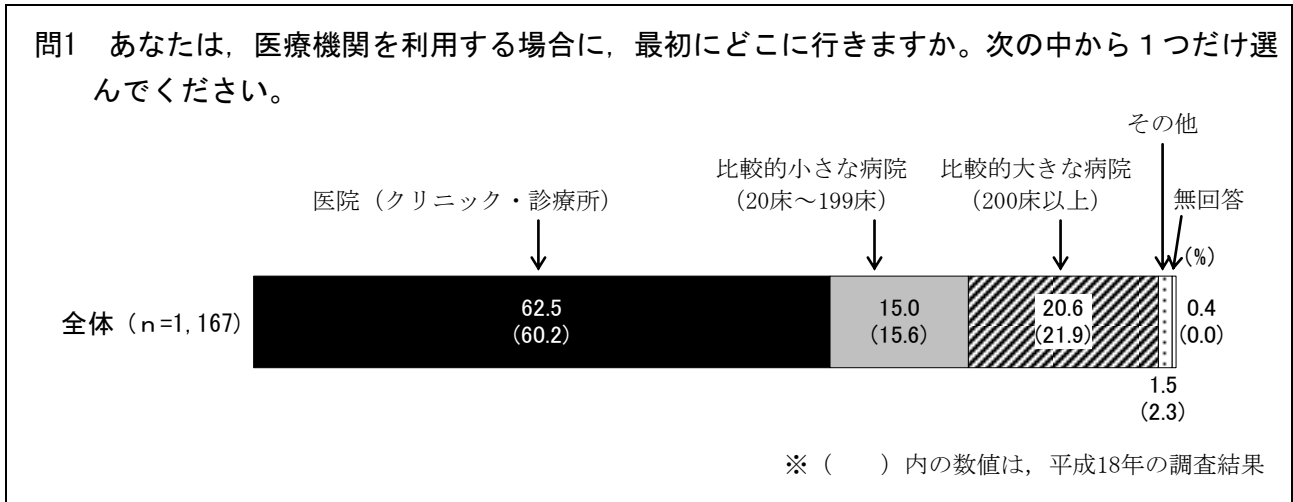


VI 健康と保健・医療に関する意識

1. 最初にかかる医療機関

—「医院（クリニック・診療所）」が6割を超える—



最初にかかる医療機関としては、「医院（クリニック・診療所）」（62.5%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで「比較的大きな病院（200床以上）」（20.6%）が約2割、「比較的小さな病院（20床～199床）」（15.0%）が1割台半ばとなっている。

前回調査と比べると、「医院（クリニック・診療所）」が約2ポイント増加している。

—「医院（クリニック・診療所）」は、女性の30代で8割を超える—

地域別でみると、「医院（クリニック・診療所）」は、県央（67.5%）と県南（66.7%）で6割台半ばを超えて高く、「比較的大きな病院（200床以上）」は、鹿行（37.8%）で約4割と高くなっている。「比較的小さな病院（20床～199床）」は、県北（19.4%）、県央（17.8%）、県西（18.7%）で約2割と高くなっている。

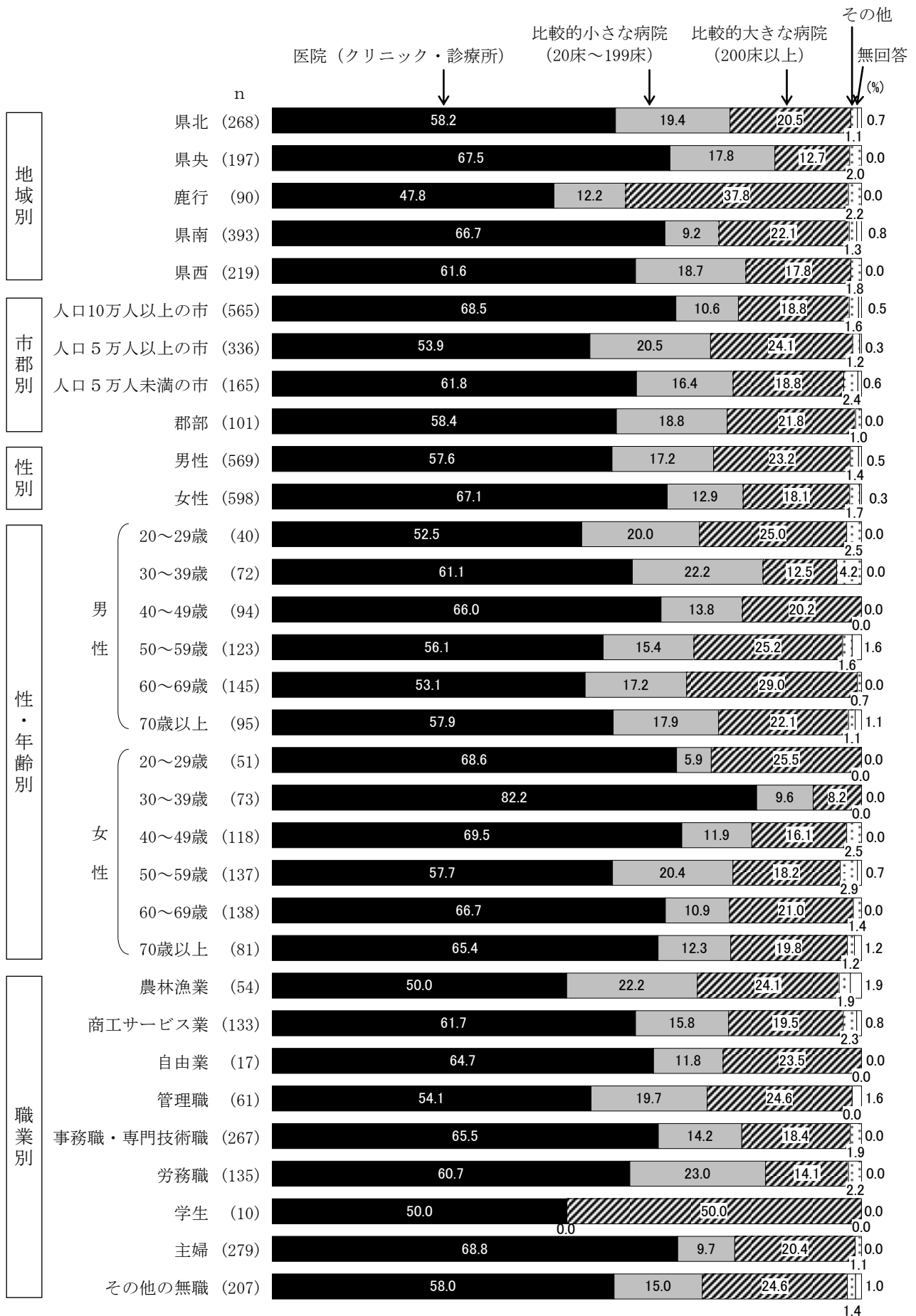
市郡別でみると、「医院（クリニック・診療所）」は、人口10万人以上の市（68.5%）で約7割と最も高く、人口5万人未満の市（61.8%）と郡部（58.4%）で6割前後となっている。また、「比較的小さな病院（20床～199床）」と「比較的大きな病院（200床以上）」は、いずれも人口5万人以上の市で高くなっている。

性別でみると、「医院（クリニック・診療所）」は、女性（67.1%）が男性（57.6%）よりも約10ポイント高くなっている。一方、「比較的大きな病院（200床以上）」は、男性（23.2%）が女性（18.1%）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「医院（クリニック・診療所）」は、女性の30代（82.2%）で唯一8割を超え、女性の20代（68.6%）と40代（69.5%）で約7割と高くなっている。

職業別でみると、「医院（クリニック・診療所）」は、主婦（68.8%）で約7割と最も高く、事務職・専門技術職（65.5%）で6割台半ばとなっている。

図VI 1-1 最初にかかる医療機関（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）

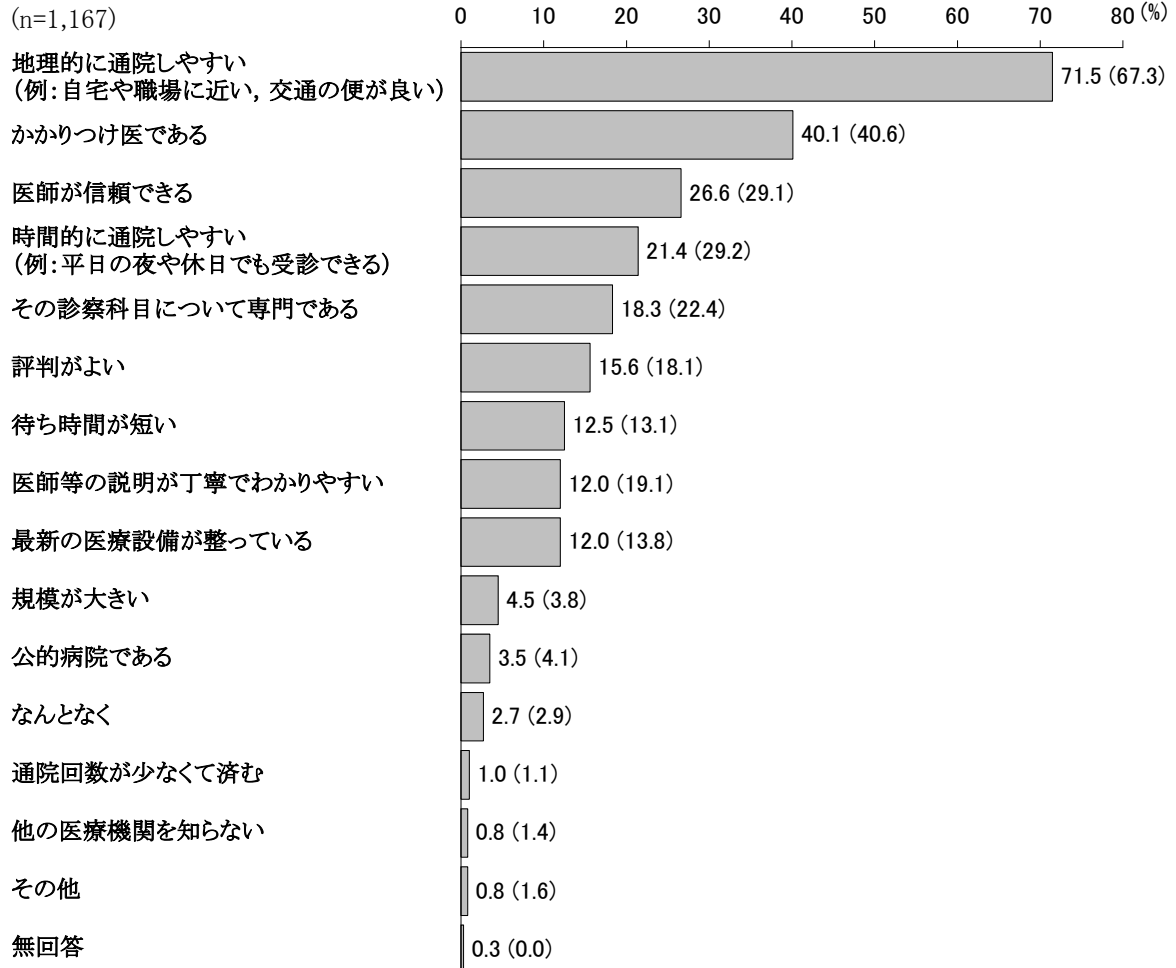


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 医療機関の選択基準

—「地理的に通院しやすい」が7割を超える—

問2 あなたは、利用する医療機関をどのような基準で選んでいますか。次の中から3つまで選んでください。



※()内の数値は、平成18年の調査結果

医療機関の選択基準としては、「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」（71.5%）が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「かかりつけ医である」（40.1%）が約4割，「医師が信頼できる」（26.6%），「時間的に通院しやすい（例：平日の夜や休日でも受診できる）」（21.4%）が2割台で続いている。

前回調査と比べると，「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」が約4ポイント増加し，「時間的に通院しやすい（例：平日の夜や休日でも受診できる）」が約8ポイント減少している。

—「地理的に通院しやすい」は県央と県南で7割台半ば—

地域別でみると、「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」は，県央（75.1%）と県南（74.6%）で7割台半ばと高く，県北（70.1%）と県西（69.9%）で7割前後となっている。「かかりつけ医である」は，県西（26.9%）以外の地域で4割台となっている。

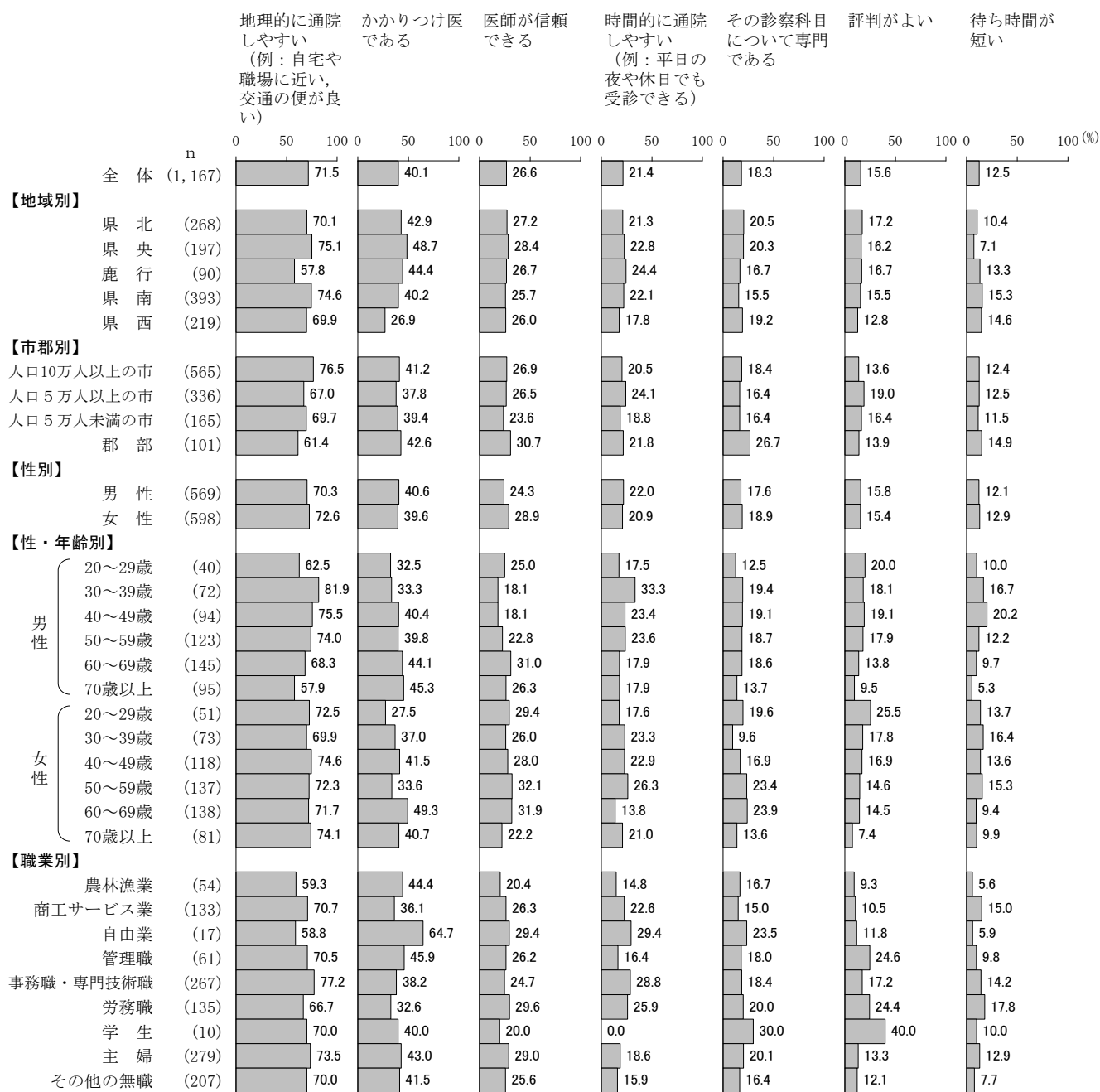
市郡別でみると，「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」は，人口10万人以上の市（76.5%）で7割台半ばと高く，人口5万人以上の市（67.0%）と人口5万人未満の市（69.7%）で約7割となっている。また，「かかりつけ医である」は，すべての層で4割前後となっている。

性別では，「医師が信頼できる」は，女性（28.9%）が男性（24.3%）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると，「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」は，男性の30代（81.9%）で唯一8割を超えて高く，男性の20代（62.5%），60代（68.3%），70歳以上（57.9%），女性の30代（69.9%）以外の年代で7割を超えている。また，「かかりつけ医である」は，女性の60代（49.3%）で約5割と高く，女性の20代（27.5%）で最も低くなっている。

職業別でみると，「地理的に通院しやすい（例：自宅や職場に近い，交通の便が良い）」は，農林漁業（59.3%），労務職（66.7%）以外の職業で7割を超えている。

図VI 2-1 医療機関の選択基準（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別—上位7項目）

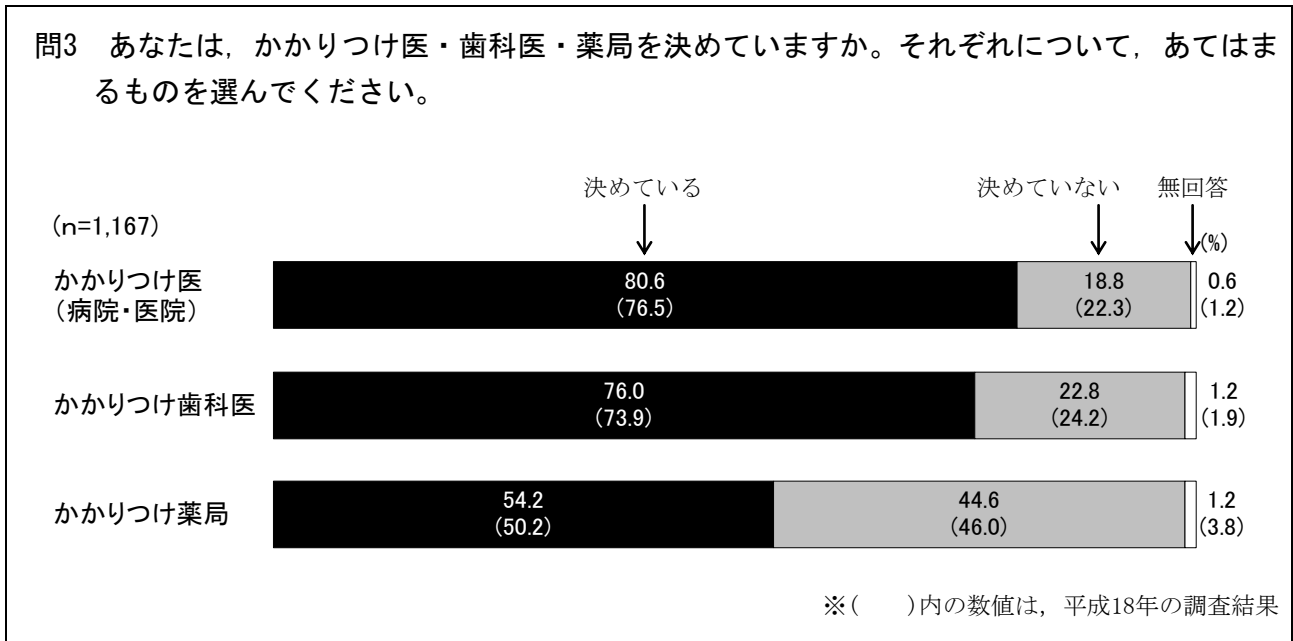


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

3. かかりつけ医の医療機関

(1) かかりつけ医の有無

—かかりつけ医（病院・医院）を「決めている」は8割を超える—



かかりつけ医の有無を聞いたところ、「決めている」は、かかりつけ医（病院・医院）（80.6%）で約8割、かかりつけ歯科医（76.0%）で7割台半ばとなっている。かかりつけ薬局（54.2%）は5割台半ばである。

前回調査と比べると、かかりつけ医は、「決めている」が約4ポイントとわずかに増加している。かかりつけ歯科医は、約2ポイントとわずかに増加している。かかりつけ薬局は、「決めている」が4ポイントとわずかに増加している。

かかりつけ医

—「決めている」は男女の70歳以上で9割台—

地域別でみると、「決めている」は、県央（86.3%）で8割台半ばと最も高く、県西（74.4%）以外の地域で8割前後となっている。一方、「決めていない」は、県西（25.6%）で2割台半ばと最も高くなっている。

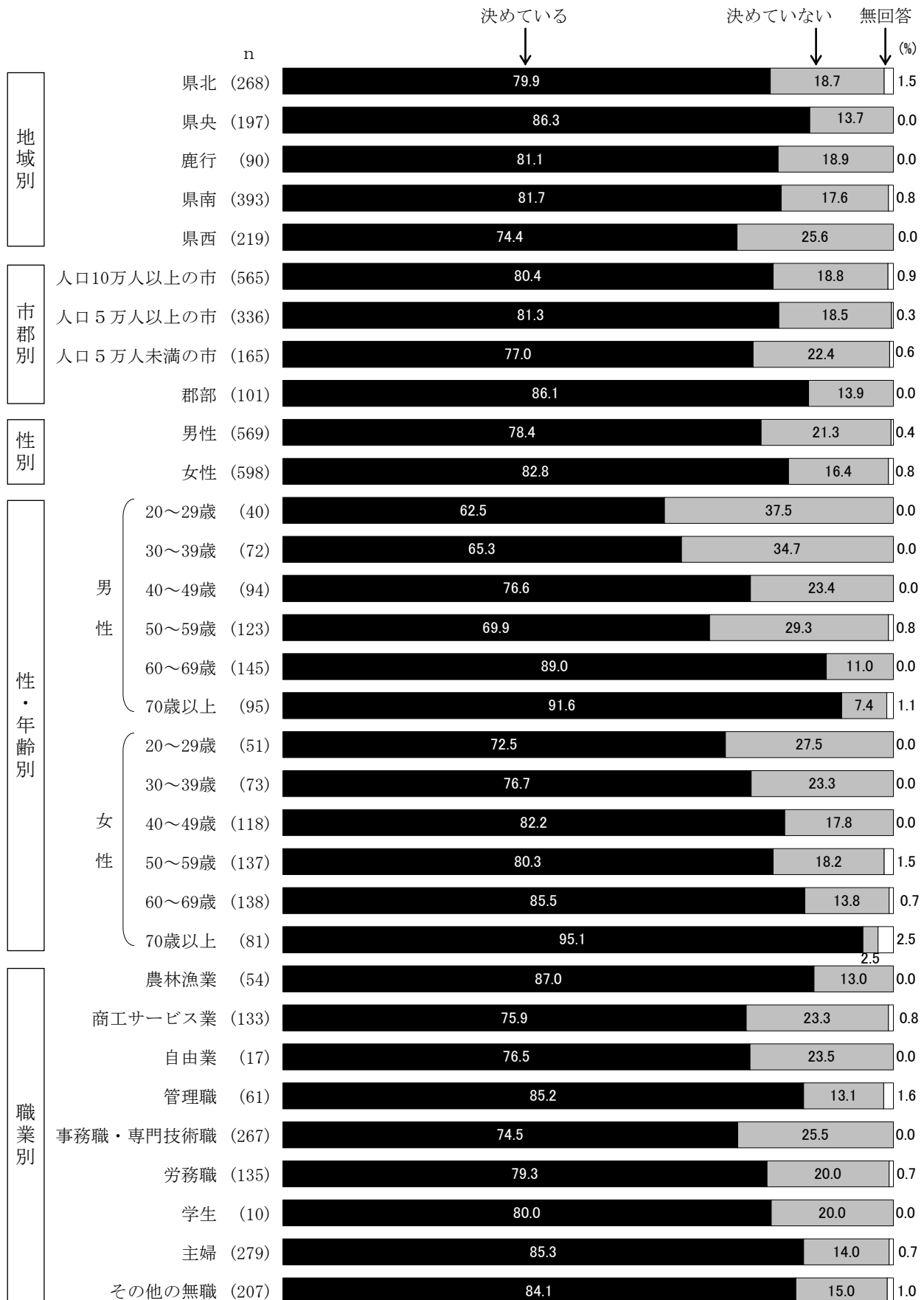
市郡別でみると、「決めている」は、郡部（86.1%）で8割台半ばと最も高く、それ以外の層では8割前後となっている。

性別では、女性（82.8%）が男性（78.4%）よりも約4ポイント高くなっている。一方、「決めていない」は、男性（21.3%）が女性（16.4%）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「決めている」は、男女とも70歳以上で9割台と高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなっている。一方、「決めていない」は、男性の20代（37.5%）で約4割と最も高くなっている。

職業別でみると、「決めている」は、農林漁業（87.0%）で約9割と最も高く、管理職（85.2%）、主婦（85.3%）、その他の無職（84.1%）で8割台半ばとなっている。

図VI 3-1 かかりつけ医の有無 かかりつけ医（病院・医院）
 （地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

かかりつけ歯科医

—「決めている」は男女の60代、70歳以上、女性の40代で8割を超える—

地域別でみると、「決めている」は、県央（87.3%）で約9割と最も高く、県北（78.4%）、鹿行（81.1%）で8割前後となっている。一方、「決めていない」は、県西（32.4%）で3割を超え、県南（26.7%）で2割台半ばと高くなっている。

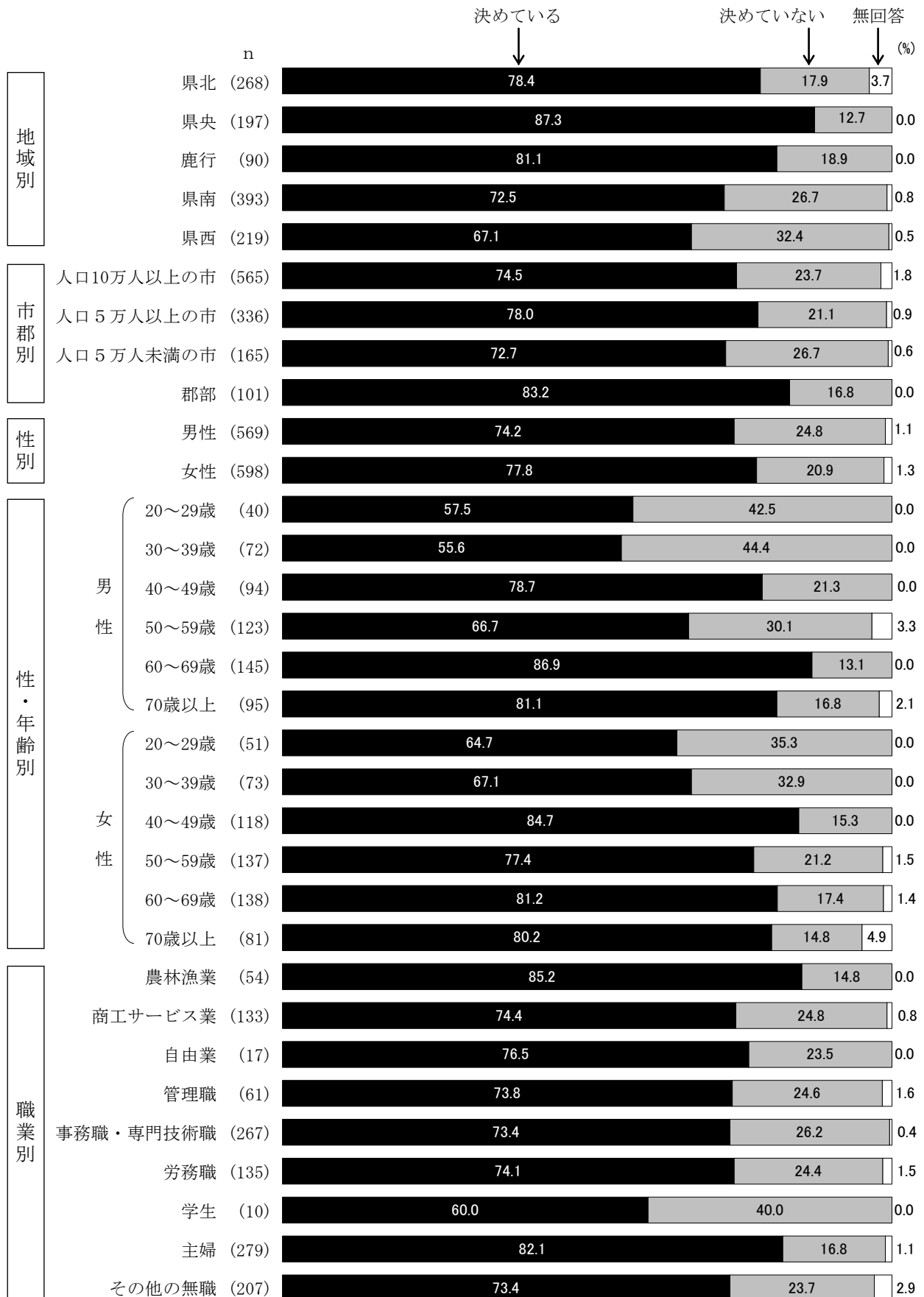
市郡別でみると、「決めている」は、郡部（83.2%）で8割台半ばと最も高く、人口5万人以上の市（78.0%）で約8割となっている。一方、「決めていない」は、郡部（16.8%）以外の層で2割台となっている。

性別でみると、「決めている」は、女性（77.8%）が男性（74.2%）よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「決めている」は、男性では、60代（86.9%）、70歳以上（81.1%）で8割を超えて高くなっている。女性では、40代（84.7%）、60代（81.2%）、70歳以上（80.2%）で8割を超えて高くなっている。一方、「決めていない」は、男性では、20代（42.5%）と30代（44.4%）で4割を超え、女性でも20代（35.3%）と30代（32.9%）で3割を超えており、男女ともに20代と30代で高くなっている。

職業別でみると、「決めている」は、農林漁業（85.2%）と主婦（82.1%）で8割を超えて高くなっている。

図VI 3-2 かかりつけ医の有無 かかりつけ歯科医
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

かかりつけ薬局

—「決めている」は女性の70歳以上で8割—

地域別でみると、「決めている」は、鹿行（70.0%）で最も高く、県北（54.9%）、県央（54.8%）、県南（53.9%）で5割台半ばとなっている。一方、「決めていない」は、県西（52.5%）で5割を超えて高くなっている。

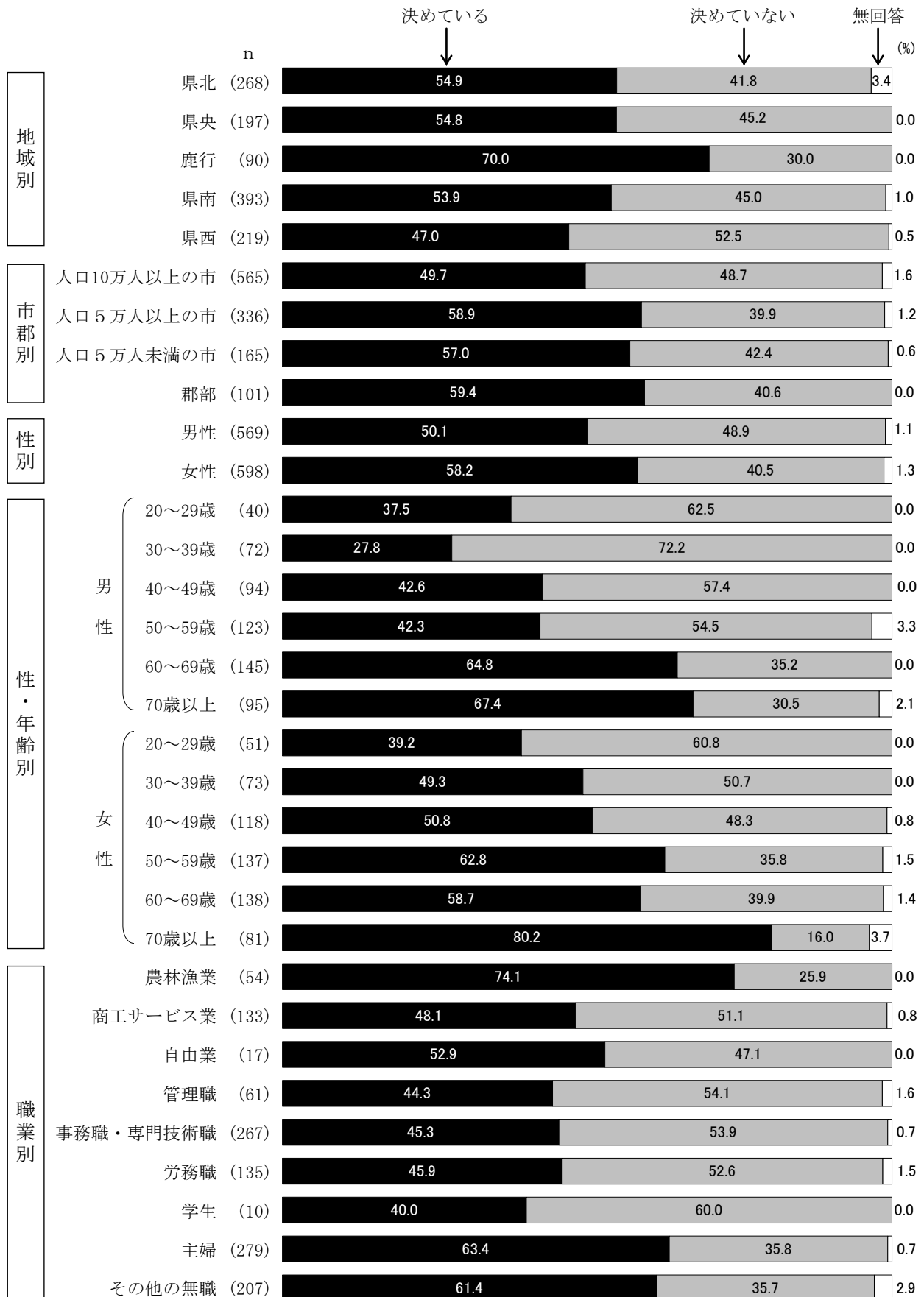
市郡別でみると、「決めている」は、人口10万人以上の市（49.7%）以外の層で約6割と高くなっている。一方、「決めていない」は、人口10万人以上の市（48.7%）で約5割と最も高く、それ以外の層では4割前後となっている。

性別では、「決めている」は、女性（58.2%）が男性（50.1%）よりも約8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「決めている」は、女性の70歳以上（80.2%）で約8割、男性の60代（64.8%）、70歳以上（67.4%）、女性の50代（62.8%）で6割台となっている。一方、「決めていない」は、男性の30代（72.2%）で7割を超えて最も高く、男女の20代でも6割台と高くなっている。

職業別でみると、「決めている」は、農林漁業（74.1%）で7割台半ば、主婦（63.4%）、その他の無職（61.4%）で6割を超えて高くなっている。

図VI 3-3 かかりつけ医の有無 かかりつけ薬局
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



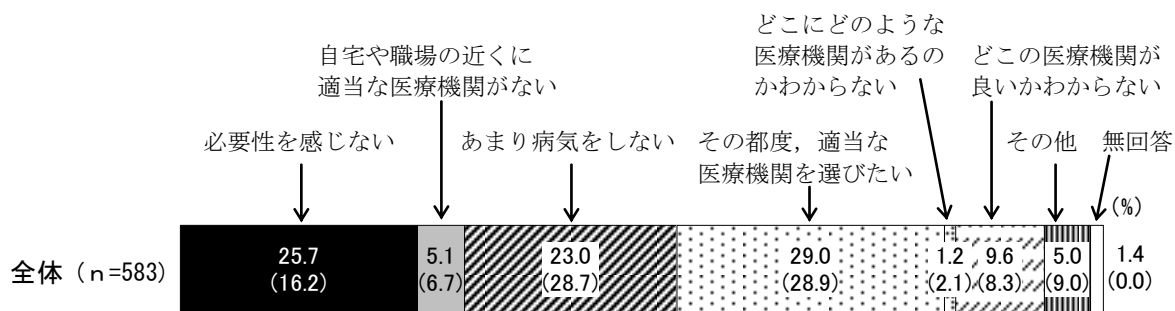
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) かかりつけ医を決めていない理由

—「その都度、適切な医療機関を選びたい」が約3割—

(問3で、「決めていない」を1つ以上選んだ方のみ)

問3-1 あなたが、かかりつけの医療機関を決めていないのはなぜですか。次の中から1つだけ選んでください。



※ () 内の数値は、平成18年の調査結果

かかりつけ医を決めていない理由としては、「その都度、適切な医療機関を選びたい」(29.0%)が約3割で最も高く、次いで、「必要性を感じない」(25.7%)と「あまり病気をしない」(23.0%)が2割台で続いている。

前回調査と比べると、「必要性を感じない」が約10ポイント増加し、「あまり病気をしない」が約6ポイント減少している。

—「その都度、適切な医療機関を選びたい」は男女の40代で約4割—

地域別でみると、「その都度、適切な医療機関を選びたい」は、県北(33.3%)、県南(28.8%)、県西(29.8%)で3割前後となっているが、県央(25.3%)、鹿行(21.9%)では低くなっている。「必要性を感じない」は、県西(16.5%)で1割台半ばと最も低くなっている。

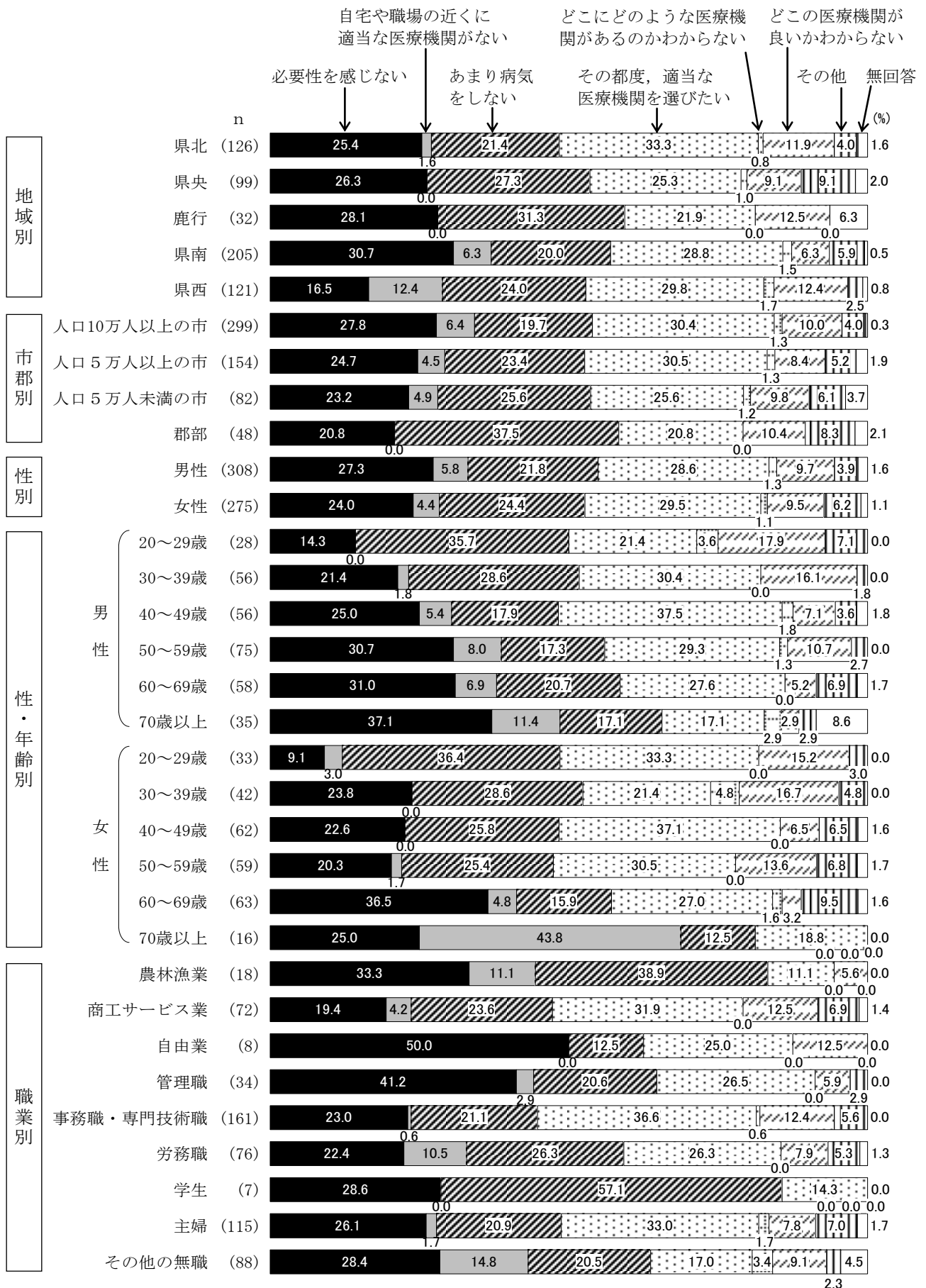
市郡別でみると、「その都度、適切な医療機関を選びたい」は、人口10万人以上の市(30.4%)、人口5万人以上の市(30.5%)で約3割となっている。「必要性を感じない」は、すべての層で2割台となっている。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「その都度、適切な医療機関を選びたい」は、男女の40代で約4割と高く、男性の30代(30.4%)、50代(29.3%)、女性の20代(33.3%)、50代(30.5%)で3割前後となっている。「必要性を感じない」は、男性では年齢が上がるほど高く、70歳以上(37.1%)で約4割となっている。

職業別でみると、「その都度、適切な医療機関を選びたい」は、商工サービス業(31.9%)、事務職・専門技術職(36.6%)、主婦(33.0%)で3割を超えている。

図VI 3-1-1 かかりつけ医を決めていない理由
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)

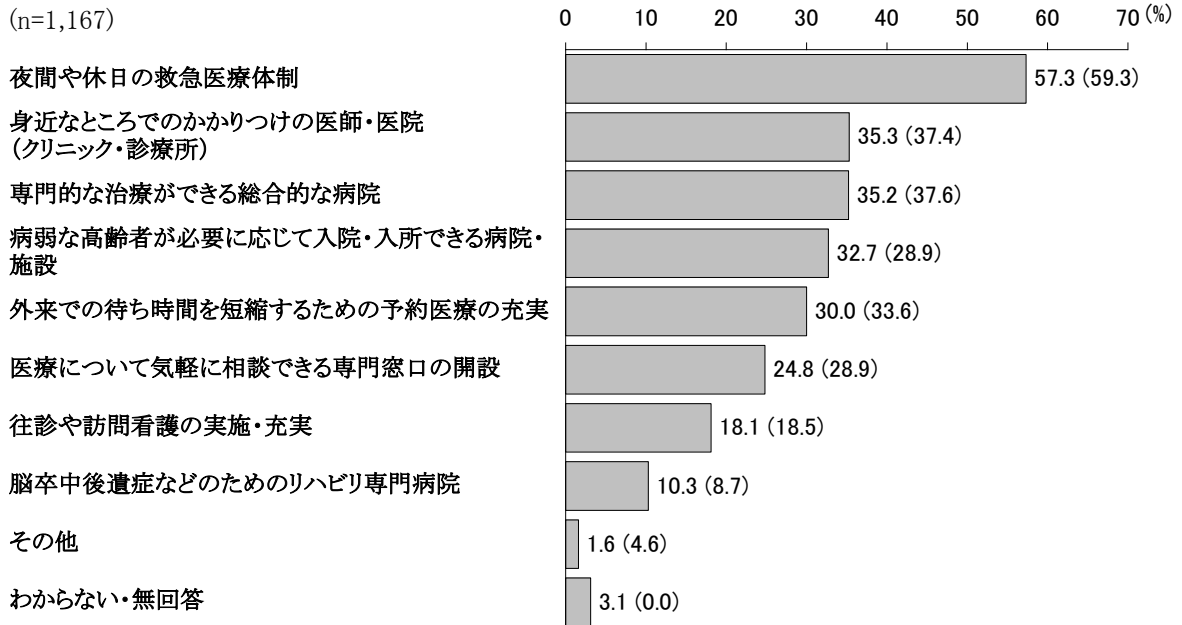


(注) 男性20~29歳, 女性70歳以上, 農林漁業, 自由業, 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

4. 身近な地域に期待する医療施設や医療サービス

—「夜間や休日の救急医療体制」が約6割—

問4 あなたは、今後あなたの身近な地域にどのような医療施設や医療サービスを期待しますか。次の中から3つまで選んでください。



※()内の数値は、平成18年の調査結果

身近な地域に期待する医療施設や医療サービスとしては、「夜間や休日の救急医療体制」(57.3%)が約6割で最も高く、次いで、「身近なところでのかかりつけの医師・医院(クリニック・診療所)」(35.3%)、「専門的な治療ができる総合的な病院」(35.2%)、「病弱な高齢者が必要に応じて入院・入所できる病院・施設」(32.7%)、「外来での待ち時間を短縮するための予約医療の充実」(30.0%)が3割台、「医療について気軽に相談できる専門窓口の開設」(24.8%)が2割台半ばで続いている。

前回調査と比べると、「病弱な高齢者が必要に応じて入院・入所できる病院・施設」は約4ポイント増加しているが、「外来での待ち時間を短縮するための予約医療の充実」と「医療について気軽に相談できる専門窓口の開設」は、約4ポイント減少している。

—「夜間や休日の救急医療体制」は県央、鹿行、県西で6割前後—

地域別でみると、「夜間や休日の救急医療体制」は、県央（58.9%）、鹿行（61.1%）、県西（58.9%）で6割前後、県北（56.3%）と県南（55.5%）で5割台半ばとなっている。「身近なところでのかかりつけの医師・医院（クリニック・診療所）」は、鹿行（38.9%）と県南（38.7%）で約4割となっている。「専門的な治療ができる総合的な病院」は、県北（42.5%）と鹿行（45.6%）で4割を超えている。

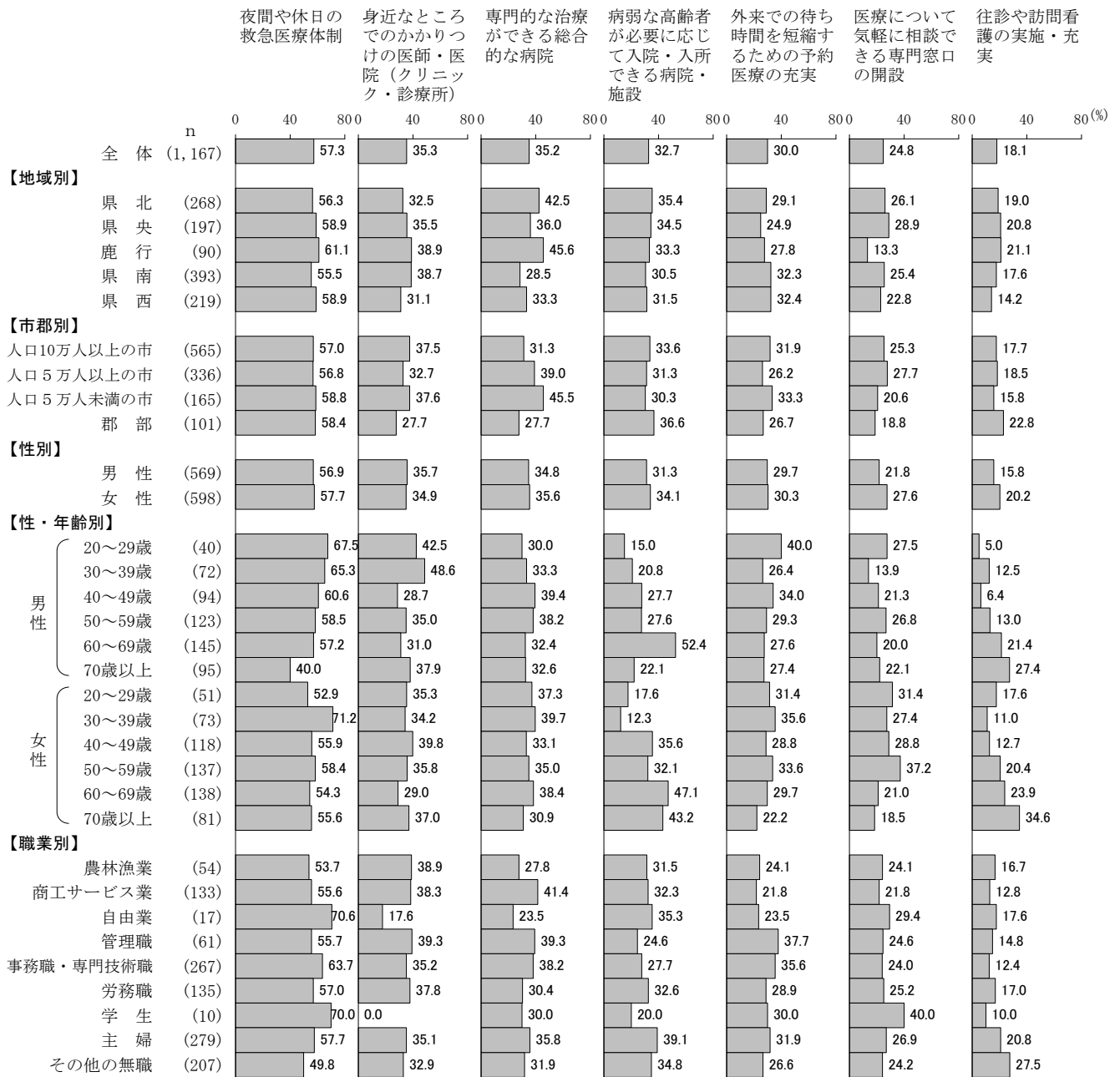
市郡別でみると、「夜間や休日の救急医療体制」は、すべての層で5割台半ばを超え、「身近なところでのかかりつけの医師・医院（クリニック・診療所）」は、郡部（27.7%）以外の層で3割を超えている。「専門的な治療ができる総合的な病院」は、人口5万人未満の市（45.5%）で4割台半ばと最も高く、郡部（27.7%）で低くなっている。

性別でみると、「医療について気軽に相談できる専門窓口の開設」は、女性（27.6%）が男性（21.8%）よりも約6ポイント、「往診や訪問看護の実施・充実」でも、女性（20.2%）が男性（15.8%）よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「夜間や休日の救急医療体制」は、女性の30代（71.2%）で7割を超えて最も高く、男性の20代（67.5%）、30代（65.3%）、40代（60.6%）で6割を超えて高くなっている。また、「身近なところでのかかりつけの医師・医院（クリニック・診療所）」は、男性の30代（48.6%）で約5割と最も高く、男性の20代（42.5%）で4割を超えている。「専門的な治療ができる総合的な病院」は、すべての年代で3割台となっている。

職業別でみると、「夜間や休日の救急医療体制」は、事務職・専門技術職（63.7%）で6割台半ばと最も高く、その他の無職（49.8%）以外の職業で5割台となっている。また、「身近なところでのかかりつけの医師・医院（クリニック・診療所）」は、すべての職業で3割を超えている。「専門的な治療ができる総合的な病院」は、商工サービス業（41.4%）、管理職（39.3%）、事務職・専門技術職（38.2%）で4割前後と高くなっている。

図VI 4-1 身近な地域に期待する医療施設や医療サービス
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

